

の時間の位置づけを明確にする。

道徳の時間は「各教科及び特別活動における道徳教育と密接な関連を保ちながら、計画的・発展的な指導を通して、これを補充・深化・統合

したがつて、全体計画はその趣旨の達成を図るための基盤となるものであり、道徳の時間の指導計画を作成する大きなよりどころとなるよう関連づけることが大切である。

道徳の時間において、明確なねらいを設定する。

道德の時間で育成する道德的実践力とは、現在及び将来出会うであろう様々な場面、状況において最も適切な行為を選択し実践することが可能となる内面的な資質を意味している。道徳の時間においては、このことを踏まえてねらいを分析し具体的におさえておくことが大切である。

児童生徒に主体的な自覚を深めさせ
るための指導の手順を示したもので
あるから、児童生徒や学級・学校等
の実態に応じて指導のねらいが達成
されるよう指導致法の工夫、改善
が行われることが必要である。

この場合、適切な資料を選択し、
児童生徒に間接経験を与えたり、道
徳的価値についての自覚を強めさせ
ることにより指導の効果を上げるこ

(四) 家庭及び地域社会との連携・協力により道徳教育が一層効果的に行われるよう努める。

(四) 家庭及び地域社会との連携・協力

ある。徳的判断力、徳的的心情、徳的態度及び実践意欲の三つに分けて評価することもあるが、評価の資料は総合的に解釈し、短時間や短期間での変容を評価する場合には十分留意し、長期にわたって見守ることも重要で

だけ把握するように努めることが大切である。

五、特別活動の充実

五、特別活動の充実

(一) 特別活動指導の在り方

(一) 特別活動指導の在り方

特別活動は、児童（生徒）活動、学級行事、学級指導の三つの内容があり、これらに共通した特質は「集団活動」と「実践活動」である。

各教科や道徳の指導においても、学級を単位とした多様な集団をつくって学習を進めるが、その集団を構成することは、それぞれの学習を助けるためのもので、手段や方法上のものといえる。しかし、特別活動における様々な集団は、集団をつくることそのものが活動の一つであるという点で、基本的に他の教育活動と性格を異にしているたとえば、クラブを学級や学年の枠をはずして組織することや、学校行事で学年または全校的な規模で集団を構成

(二) 活動　自發的、自治的活動を促す学級会

仕事をみつけ実践していくものであるし、遠足・旅行的行事においても、校外において見聞を広め、集団生活のきまりや、公衆道德などの望ましい体験を積ませることにある。

特別活動は、このように三つの内容に共通した特質と、それぞれの内容独自の特質をもっているので、それらを的確に把握し、指導を進めていくこと

が大切である。

学級会活動は、児童生徒が自分たちの学級生活を向上発展させようとする意図のもとに、自發的、自動的に学級生活に関する諸問題を話し合い、その解決を図る活動及び学級内の仕事の分担処理に関する活動を行うことによって、学級集団の一員としての自觉と連帯感を高め、健全な自主性や社会性を

ることはむずかしく、学校教育に期待

することがこれに当たる。

共通するもう一つの特質は、児童生徒自身が集団の活動を通して“なすこと

とによつて学ぶ” という「実践活動」である。

直接的な経験や体験を通して理解を深める学習は、各教科や道徳において